

AIエージェントと連携した遠隔診療システムの開発

-医療現場の不安を、臨床判断につなげる-

澤野 晋之介、竹内 博俊、キャメロン トーマス研太

- 課題：多疾患併存が増える一方、専門医は偏在し、医師は情報があるのに臨床判断へ変換できない場面が多い
- 概要：医師間コミュニケーションにAIを介在させ、情報整理→初期評価→議論支援→記録生成までを一貫支援し、専門医の判断プロセスを効率化し、診療支援の最適化を目指す。データはチャット上の診療情報から自動収集され、AIが必要情報の抽出と不足項目の検出。構造化された情報に基づき、症例単位で相談内容を整理し、医師間の情報連携がより短時間で高度判断を行える環境を実現するため医療現場でのPoCを実施した。

AIと専門医の連携した相談窓口を一気通貫で構築し、現場で試験運用



情報の入り口と出口となる①③の運用を現場で検討

20施設40名の医師を生成AI支援型の遠隔コンサルテーションで支援。論文執筆中

65%削減
情報の構造化に要する時間



93%完遂
テキストベースでの支援完遂率



※1.5か月、23症例